

# 貿易収支は黒字に戻る

経済調査部 首席エコノミスト 熊野 英生(くまの ひでお)



## 東日本大震災以来の貿易赤字が変わった

2015年1月の財務省「国際収支統計」では、日本の貿易収支(季節調整値)が黒字に戻っている(速報値317億円)。月次データでの黒字は、2011年9月以来だ。2011年3月以前は貿易黒字が続いていた。日本の貿易収支は、震災により原発を停止させたことで、火力発電所をフル稼働せざるを得なくなり、化石燃料の輸入額が大きく増加して、赤字に転落した。一頃は、「日本はもう貿易黒字に戻らない」という悲観論も聞かれたが、必ずしもそうではなかったのである。

エコノミストの間では、「今は原油価格が著しく下がっている特殊な状態なので貿易黒字は長続きしない」とか、「中国の春節によって2015年1月は中国向け輸出が増えているのだから、2月以降は赤字に戻るだろう」という見方もある。筆者は、そうした見方は必ずしも否定しないが、強調したいことは、「現状は貿易赤字だから、ずっと日本は赤字なのだ」という固定観念が崩れ去ったことだ。専門家ほど、目の前の現状がずっと続くという保守的な見方に囚われがちになる。しかし、未来は常に柔軟に変化するのだ。

## 輸出増加の背景

日本の貿易収支が改善している主因は、原油価格の下落によって輸入金額がほとんど増えなくなったことがある。原油価格が、半分近くまで下がった効果は絶大である。2013年の原油輸入額は約14兆円であり、単純に輸入金額が半分になるとすると輸入金額の押し下げは7兆円になる。

ただし、注意したいのは、貿易収支の改善が、原油安の

せいだけではない点だ。別の要因として、輸出の増加もある。日本の輸出は、実質・季節調整値でみて、2014年9月頃から増加基調を鮮明にしている。

この輸出増加の原因として、これまでの円安がいよいよ輸出数量へと結びついたという見方をしやすいが、必ずしもそうではない。日銀が追加緩和をしたのは2014年10月末である。その前から、輸出数量は増えているのである。

輸出増の背景は、米経済の拡大に引っ張られて、日本やアジアからの輸出が促されたのだろう。これは、為替効果もあるが、経済規模の拡大効果(所得効果)によるものだろう。

輸出に関しては、一頃は日本の赤字は「輸出産業が競争力を失った」説や、「日本は産業空洞化が進んでしまった」説があった。実はそうした悲観論も、行き過ぎたものの見方だったと反省しなくてはいけない。

## グローバル化は日本経済に追い風

わが国が未来も経済成長を遂げていくためには、貿易自由化を推進して、輸出を増やしていくことが有益である。懸案だったTPP(環太平洋連携協定)交渉も、いよいよ春先から山場を迎える。オバマ大統領が大統領貿易促進権限(TPA)を得て、交渉妥結に思い切った決断ができるようになると期待されるからだ。

日本の輸出産業は、都市部だけではなく、地方にも生産拠点を持っており、輸出拡大の恩恵が地方経済の活性化に寄与しやすい。輸出が増加すると、その利益は他地域から地方経済へと購買力が流入することになり、域内の需要水準を押し上げる。グローバル化は日本経済の追い風となりえよう。